

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370800579 | | |
| 法人名 | 有限会社 よしはら | | |
| 事業所名 | グループホーム ことの里吉備 | | |
| 所在地 | 総社市中央6丁目12-106 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 25年 11月 30日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3370800579-00&PrefCd=33&VersionCd |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 |
| 訪問調査日 | 平成 25年 12月 7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を出し、施設色を前面に出さないよう、心がけている。もし家にいたらこうするだろう、こうしただろうという思いで入居者に接している。 ・四季折々の行事(家にいたら家族で花見に行くだろう、外食もするだろう)とそれらを随時取り入れた生活を心がけている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>利用者の意識が高く、自分で何をするかを決めて動いている。塗り絵やパズル、貼り絵、編み物など戸棚から自分がしたい物を取り出し、マイペースに行っている方もおられる。また、食後の体操や廊下の歩行訓練なども積極的に取り組んでいる方も多い。政治の話を利用者同士ですることもあるという。一見、認知症がある方には思えない生活スタイルを見て、この事業所の素晴らしさを改めて感じる。利用者1人ひとりの人格やプライドを持った生き方に配慮し、さりげない支援に徹している。そのため、利用者本人が自信を持って、自分の意見を言い、自分のしたい事を選ぶことができています。また、外出行事も積極的に行っており、思い出の写真をA4サイズに引き伸ばし、廊下に掲示している。大きい為、利用者も見やすく、話しのきっかけ作りに役立っている。運営推進会議ではいろいろなテーマで意見交換を行い、参加者に認知症や介護について考えてもらいうい機会となっている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 市の情報、地域の方からの情報でれとろーど、文化祭(写真展、菊花展、敬老会)など地域の方々との交流の場にでかけている。 | 事務所に掲示され、日頃から職員の目に入るようにしている。理念について話し合う機会を設けている訳ではないが、折に触れて会議等で管理者から話をしている。トイレには職員の30箇条が掲示され、一日一ずつでも意識していく支援を心がけている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の祭りなどに寄付をしたり、商工会議に駐車場を借りる等することで繋がりを持っている。また、喫茶店、食事は地元の箇所を利用している。 | 地域の祭りなどイベントに参加したり、地元の喫茶店に出かけたりするなどできる限り地域と触れ合う機会を設けている。事業所は団地内にあるが、若い夫婦が多い為、日常的な交流が難しいのが現状である。中学生や高校生の夏ボランティアを受け入れ、利用者も喜んでいる。 | 以前は行っていた保育園との交流が現在は途絶えている状態とのこと。子どもの姿を見ているだけで利用者にとって笑顔がほころぶ時間が増えるので、ぜひ復活させて頂くことを期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 文化祭に行くことで認知症の方でも芸術的なこと、身体的なことはなんら一般の方と変わりのない事を知っていただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員のかた、入居者の家族、市の職員に対して行事報告、入居者の日常生活のすべてを話し、それぞれの立場からの意見を頂き、サービスの向上に努めている。 | 2ヶ月に1回、開催している。参加者は利用者代表、家族、民生委員。市役所介護保険課職員、地域包括支援センター職員などである。事業所の活動状況等を報告している。また、認知症高齢者の人格尊重や災害対策などいろいろなテーマで掘り下げ、意見交換をしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | わからないこと、困ったことはまず市の介護保険課に相談したり、2ヶ月に1度ある意見交換会には必ず出席し、十分なコミュニケーションはとれているつもりである。 | 総社市介護保険課職員、地域包括支援センター職員共に運営推進会議に参加し、連携を図っている。分からない事があれば随時担当課へ連絡し訪ねている。総社市グループホーム交流会にも参加し、意見交換をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は住宅地域内にあり、交通量が多いことからやむなく施錠している。また、入居者の一人に関しては原因不明の歩行困難者に対し、家族の了解のもと、時間的拘束を行っている。 | 玄関は施錠しているが、事業所内は自由に行き来できる。現在1名が家族の同意のもと、身体拘束の対象となっている。車いす使用しているが、自ら立ち上がり転倒してしまうため、時間帯によってベルトを着用している。食事のときは普通の椅子に座って頂くなど、拘束時間を少なくできるよう工夫している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日常生活の中でスタッフが入居者に、入居者同士において、言葉の暴力、身体的暴力が行われていないか、常に情報交換を行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法律と介護に関する研修などに参加し、制度の事も再度勉強し、スタッフにも話をするなどして活用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議時に家族代表に、また、面会時、家族等には口頭で聞いている。 | 家族からは遠慮もあり、あまり意見を言われたい。管理者としては小さなことでも気付いたことは言ってもらい、大きなストレスになる前に解決していきたいと考えている。以前、匂いについて意見があり、職員が事業所の日常に慣れてしまわないように注意している。 | 家族からもっと意見を頂き、よい事業所にしたという管理者の思いを感じました。意見箱を設置していても活用されていないとのこと。事業所独自の家族アンケートなど実施することで普段は分かりにくい細かい意見をくみ取ることができるよう働きかけてはいかがでしょうか。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 常々、スタッフの要望は管理者が聞き、随時話し合ったり、事業主に報告している。 | 職員の勤務時間の希望や購入してほしいものなど意見や要望を管理者が聞き取り、事務所に伝えている。社長もときどき現場に顔を出し、職員も気さくに話ができる雰囲気である。人材が不足している時期もあったが、現在は落ち着いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | シフト作成時、希望する休み等聞くことで、働きやすい条件を作っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新しいスタッフ、苦手なパーツを持っているスタッフに対しては逐一指導を行うと共に、介護実技教室に参加をすすめている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の主催するグループホーム意見交換会で他施設の訪問が行われていて、現在3カ所目と個人的に1カ所の交流をもっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 特に入所初期の不安の多いときにこまやかに話し合い、家族の名前などを出すことで安心してもらっている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 2～3日、1週間目、1ヶ月目など家族も心配されていることを察してこちらから報告したり、相談をする形で関わりをつくっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所前からの情報や家族の見学された時の話から、察せられるのでできるだけ要望に応じるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | プライバシーを尊重し、介護しているという気持ちより、させてもらっているという気持ちを持つよう心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 実際問題としてスタッフだけでは支えきれないことも多い。家族の協力をあおぐ事で、上手くいくことを家族とともに喜び合う。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の希望、家族の希望を聞き、ホーム内で行えることはしているが、本人と家族の気持ちの相違があることもあり難しい。 | ほとんどの利用者が地元の方であり、国分寺五重塔など昔訪れたことのある場所へ外出すると喜ばれる。近所の方や友人が面会にくることもあるが、家族の了解を得てから会って頂くようにしている。利用者本人の認知症進行により、話しがかみ合わなくなり、職員が間に入ることもある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 「社会の縮図」だと思われる面や性格的なものも多いが、スタッフは全ての入居者が対等であるという意識をもち、その方に応じた支援を行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 特養など他施設に転居された方については、その方の家族や施設の方に状況を聞くことはある。退所された方の家族からオムツの工夫をしたので使ってみて下さいと連絡もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 思いや意向も本人が口に出されることは少ない。話をしている中で、こんな風に思っているのだなあと感じるので、それに添った支援を心がけている。 | 「どんな風に暮らしたい?」「何かしたいことはある?」など質問をしても「〇〇がしたい」と答えられる利用者は少ない。日常会話の中での言葉や表情を通じて「こうして欲しいだろうな」と思いをくみ取るよう心掛けている。家族にも要望を聞き、できることは対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所直前の生活環境はご家族から聞いている。生活歴は本人もあまり覚えておられないが、話をしている中で少しずつ把握している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 自分の家にいるような感じで生活していただいている。起床時間、就寝時間も本人次第で自分で決めていただいている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族とは面会時に必ず現状を報告し、意見をいただいている。面会が少ない方には当方から電話で連絡し、相談することもある。 | ミーティングの際、職員全員でモニタリングを行っている。プランを継続するかどうか、方法を変えるか、達成したので中止とするか等、みんなで話し合っている。プラン見直しの前に家族に説明し、意見や要望を聞いている。時にはカンファレンスに参加してもらう場合もある。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 午前中、午後、夜間時の過ごし方、言われた言葉など、毎日記録し、介護計画に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 突然の行動、言動にもできる限り対応している。既存に捉われることはない。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域にある資源を活用することで外部との交流を深めたり、利用する楽しみを見つけ、生活に豊かさを増すように努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前に家族、本人と話し合い、主治医を決めていただいている。市内であればスタッフを受診に付き添う。 | 入居前に話し合い、本人や家族の希望するかかりつけ医を決めている。協力医療機関より2週間に1回、往診もある。協力医は1日に1～2人ずつ診察しているため、月の半分くらい事業所に訪問してくれている。些細なことでも報告し、相談できる関係ができている。夜間も何かあれば電話で指示を仰ぐことができる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 身体的な不安に関しては、看護師から本人に言うてもらった方が安心度が違うように思われるのでそのようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は家族からの報告をもとに看護師、医師に直接話をする機会を設け、現状、退院後の事について十分な知識を得るように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人と家族の意向を尊重している。 | 現在は看取り支援はしていないが、医療行為が必要ない場合、家族の希望を尊重し、支援していきたいと考えている。その時の状況に応じて主治医や家族と相談し、対応していく予定である。最期をどう迎えたいか、家族の思いもそれぞれ違うため、日頃の会話の中から感じとっていけるよう努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを熟知している。常に目のつく場所に貼り、スタッフ同士で話し合っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎年、3月、11月に防火訓練を行い、経験がない者がいないよう全員が参加し、消防署に報告している。 | 年2回、避難訓練を実施している。毎回出火場所を変更し、避難誘導終了までの時間を測定している。利用者の札を作り、避難後につけることで全員避難したかどうか分かる工夫をしている。社長が近くに住んでいることもあり、近隣に知人が多く、緊急時には協力を得ることができる。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレの誘導時の声かけ、入浴時の更衣は特に注意している。 | 利用者の意識も高く、1人ひとりへの声かけの方法や利用者同士の人間関係にも配慮している。失禁したパンツを隠してしまう場合には職員は知らないふりをしてさりげなく洗濯をして戻しておく等、利用者の誇りやプライドを大切にしたい支援を心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | レクの参加、散歩希望の有無、料理の味付け、みそ味、しょうゆ味を決めてもらい、各人の好みのものを作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | リハビリ体操、散歩などは出来るだけ行ったほうが良いと思われるので、しましょうと声をかけるが、その他はスタッフのペースに合わせていることはない。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節にあったものを着るので上着とズボンなどの組み合わせにも注意している。外出時はスカーフをするなどのおしゃれを心がけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 料理の味見、お膳拭きなどは出来る方にはしていただき、美味しかった、何が食べたい等話をする機会にしている。 | 衛生面を考慮し、調理は職員が中心となり行っているが、ゴマすりやもやしのひげ取り、テーブル拭き等できる所は手伝ってもらっている。また、できない方にも味見をお願いし、声をかけ、意見を言ってもらうなどしている。家族から柿やキウイなど差し入れもあり、美味しく頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養面については好き嫌いもあるので毎回全量摂取は難しいが、水分は必要量は摂っていただいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯の洗浄、残存歯の歯磨きは1日3回、毎食後行っている。洗面台まで行けない方はガーグルベースにて施行。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 便意、尿意の有る方は自分でトイレに行く。それらがない方はチェック表を参考に2時間毎の誘導を行い、トイレでの排泄を第一に考えている。 | 2時間おき位に声をかけ、トイレへ誘導しているが、バットがすでに濡れていればその後は少し早目に声をかけるなど臨機応変に対応している。トイレで排泄できたことを本人と一緒に喜び、次回に繋がるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事は野菜、海藻類などを中心にし、便秘の改善に努めている。個人的に牛乳、ヨーグルト、果物など摂取されている方もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は午後、13時～15時で1日おきの為、予定を作成している。 | 週3回程度、入浴できるよう支援している。激しい入浴拒否がある利用者には娘さんに協力して頂き、一緒にお風呂へ行き、途中で職員と入れ替わっている。利用者が少しでも気持ちよく入浴できるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 降圧剤、酸化マグネシウム、痒み止めなどは変化に気づいた時に医師に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ボール投げは好きだけれど机の上でするのは嫌い、歌は好きだけれど体操は嫌い、色々な方がおられるが、自己決定していただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩程度なら希望があれば毎日でも出かけている。 | 天気の良い日には庭に出たり、近隣を散歩したりしている。本人の希望があればできるだけ応えている。また、サンロード吉備路や地元の喫茶店、恒例の初詣、紅葉狩りなど外出を楽しんでいる。今年度、外食でバイキングに初めて出かけ、利用者がそれぞれ好きなものを持って食べることができ、とても喜ばれたとのこと。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物に行かれる方は持っておられるが、その他の方は欲しいものは家族からお預かりしているお小遣いの中から支払いをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話はいつでもOK。手紙は頼まれたらスタッフが投函している(月に1度位) | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビの音量の調整、カーテンの開閉など入居者の希望により行っている。 | リビングの窓が南向きで大きいこともあり、とても明るい。天気のいい日には冬でもカーテンが必要な位である。庭にはたくさん木が植えられ、緑が心地よい。廊下には行事の写真が飾られ、「あの時は楽しかったね」など会話のきっかけになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室に仲の良い方を呼んで話をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の写真や使い慣れた家具を置き、自分の居室らしさを作っている。 | 窓が少し低めの位置で大きい為、見晴らしが良く、明るい。洗面所やクローゼットなど収納スペースがあり、すっきりとしている。壁にはボードを取り付け、カレンダーや家族の写真、塗り絵などの作品を飾っている。観葉植物やテレビ、机などそれぞれ馴染みのあるものを持ってきている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 緑の鉢植えを置いて毎日水をやったり、陽のあたる場所に置いたりできる人、何もない方がいい人、それぞれ工夫している。 | | |